



次世代へつなく強靱で安心な水道を目指して！

広報山武水道

発行：企画財政課企画班
〒283-0062
東金市家徳 361-8
☎0475 (55) 7851 (代表)
<http://www.water-sansui-ki.jp>
ホームページは「山武水道」で検索
e-mail:kikaku@water-sansui-ki.jp



平成27年度決算の概要

平成28年8月24日に開催されました企業団議会8月定例会において、平成27年度の決算が次のとおり認定されました。

■決算の概要

平成27年度は、平成22年12月に策定した「地域水道ビジョン2010」（平成23年度～平成27年度）及び「山武郡市広域水道企業団中期経営計画」（平成23年度～平成27年度）に基づき、安全で安心な水を供給するため、経営基盤を強化するとともに、水道施設の整備を図りながら安定給水の確保に努めてまいりました。

■業務状況

給水人口は16万1,097人で、普及率は93.1%です。
年間総給水量は1,863万7,053㎥で、前年度と比較して13万5,023㎥の増、年間有収水量は1,675万5,593㎥で4万3,852㎥の増となり、この結果、有収率は89.9%となりました。

■主要な建設改良事業

重要給水施設配水管耐震化工事、配水管布設及び移設工事を行い、5億9,067万円支出し、延べ7,189.7mの配水管を整備したほか、東金配水場監視制御設備更新工事、松尾配水場配水ポンプ設備更新工事及び事務局管理棟機械設備更新工事を行い、3億3,584万円を支出しました。

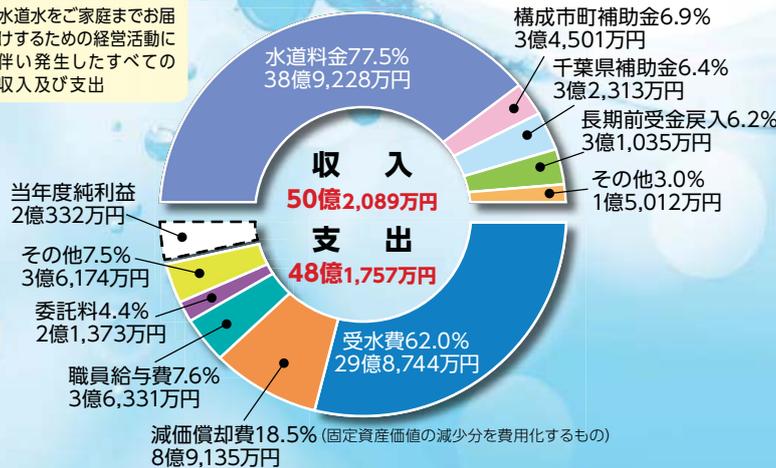
■財政状況

収益的収支（消費税及び地方消費税抜き）は、総収益が50億2,089万円、総費用が48億1,757万円で当年度純利益2億332万円を計上しました。

資本的収支（消費税及び地方消費税込み）は、国庫補助金及び工事負担金の7,705万円を財源として、建設改良費等に11億5,354万円支出し、不足額10億7,649万円は内部留保資金などで補てんしました。

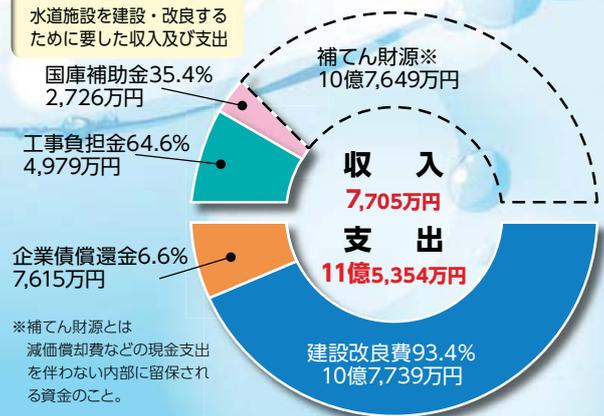
収益的収支

水道水をご家庭までお届けするための経営活動に伴い発生したすべての収入及び支出



資本的収支

水道施設を建設・改良するために要した収入及び支出



※補てん財源とは減価償却費などの現金支出を伴わない内部に留保される資金のこと。

以上が決算の概要でございますが、今後とも社会経済情勢の変化による水需要の動向等を見据えながら、経営の健全化を推進していくとともに、より質の高い給水サービスの実現を目指し、なお一層の経営努力を重ねてまいります。

水道料金について

1㎥当たり

(平成27年度決算数値)



給水原価とは、水道水1㎥をご家庭に送り届けるために要した費用
供給単価とは、水道水1㎥当たりの水道料金収入

1㎥とは、2リットルのペットボトル500本分に相当します。



水道料金は、法により「適正な原価に照らして、公正妥当なものであること。」とされています。

ここでいう原価とは給水原価（有収水量1㎥当たりの費用）をいいます。

山武水道の給水原価は、給水区域内に取水可能な水源（表流水、地下水等）がないため、利根川を水源とした九十九里地域水道企業団から浄水を購入（受水）し、各家庭へ水道水を供給していることから受水費が費用の約62%と大きな割合を占めています。

加えて、広大な給水区域の全域に水道水を供給するため、大規模な配水施設を保有しており、これら資産の減価償却費や現在までに借入れた企業債の支払利息を費用化する必要があります。

これら固定的経費は、費用全体の8割を超え、給水原価を押し上げる最大要因となっています。

また、左図のとおり、「供給単価」が「給水原価」を下回り、原価回収ができていない状況にあります。

地方公営企業の経営は、経費の支払いに料金収入をもって充てる独立採算が基本原則です。

山武水道は、水道事業という高い公共性に鑑み、不足分36.67円の大半を、千葉県及び構成市町からの補助金で賄うことで、現在の水道料金を維持しています。